

教祖140年祭
三年千日の
活動方針

「教祖のひながたを目標に
全教会心定めの達成」

◇10月26日 本部秋季大祭 終了◇

さわやかな秋晴れのもと、厳かに執行された。
網走大教会につながるようぼく信者も大勢帰参し、
にぎやかなおぢばがえりとなった。

◇第98回 天理教青年会総会 終了◇

10月27日、大勢の会員がおぢばに参集し、
真柱様のメッセージ、青年会長様の御告辞を頂いた。



発行所
天理教網走大教会
布教部出版広報掛
〒093-0073
網走市北3条西6丁目
TEL 0152-43-2227
FAX 0152-44-2227



大教会のHP がご覧になれます！
月報には掲載されない写真もいっぱいです！
ぜひ一度ご覧下さい♪

大教会 秋季大祭

大教会10月の秋季大祭は、
12日午前9時30分から大教会
長祭主のもと、執行された。

大教会長は祭文で、親神様
の御守護に御礼申し上げた後、
「九月は、布教推進月間とし
て、大教会に繋がる者がより
一層にいがけ、おたすけを
意識し、月末には全教一斉に
をいがけデーに伏せ込ませて
頂きましたこと厚く御礼申し



神殿講話全文

神殿講話 大 教会 長

上げます。私共教会長をはじめ、
め、ようぼく一同は、御本部
より祭活動三年目に相応し
い動きを取れるように、本年
末から来年早々にかけ巡教す
るようお声を頂戴いたしまし
たので、ぢばの声を素直に受
け十一月より一月中旬までに
巡教を終えさせて頂く所存で
ございます。」と奏上した。
その後座りづとめ・十二下
りのてをどりが勤められ、参
拝者は共に勇んでみかぐらう
たを唱和した。

さいました。
そして中盤から後半はまさ
に、只今我々が勤めたおつと
めを、これも二十年以上かけ
て教えて下さいました。教祖
が初めておつとめを教えて下
されたのは、今から百五十八
年前にあたる慶応二年(教祖
六十九歳)になります。その
後十五年以上の歳月をかけ、
みかぐらうたや鳴物、おてふ
りを教えて下さり、おつとめ
を初めて教えて下さってから、
九十歳でお姿を隠される明治
二十年までの二十一年間に渡
り、一貫しておつとめを勤め
てくれと我々に望まれました。
ここに在る皆さんが今歌つ
たみかぐらうたは、教祖が教
えて下さった歌になります。
みかぐらうたは、漢字で神が
楽しむ歌と書くように、我々
が一生懸命に歌えば、神様が
楽しんで下さる歌になります。
このおつとめについて、三
代真柱様は「人間世界の平穏
無事を願う、平和を願う、ど
この国とも、どこの人とも、
互いにたすけ合って暮すこと
を願うには、私はこのおつと
めに頼るほかには道がない」
とお話をされました。

◆おつとめ

教祖のひながたの五十年を
大きく前半と後半に分けると、
前半にあたる天理教が始まっ
た百八十七年前は、数々の飢
饉で餓死する人が多い時代で
「物を施して執着をされば、
心に明るさが生まれ、心に明

このひながたの前半では、
人間は一番欲が深いため、
困っている方へ施すことが、
欲の心を捨てる心になり、欲
がなくなれば陽気ぐらしの始
まりになると教祖は教えて下

このおつとめについて、三
代真柱様は「人間世界の平穏
無事を願う、平和を願う、ど
この国とも、どこの人とも、
互いにたすけ合って暮すこと
を願うには、私はこのおつと
めに頼るほかには道がない」
とお話をされました。

そして「私たちの任務は、つとめを完成させることが最大の任務である。これは、本部といわず、各教会といわず、教会長、信者の別なく、一人ひとりと同じだけの重さを持った任務である。」ともお話し下さいました。

おふでさきに、
にち／＼にはやくつとめをせきこめよ いかなるなんもみなのされるで (十一-19)
※意味 おつとめを一日も早く実行するならどんな災難も皆逃れることができる
とのよふなむつかしくなるやまいでも つとめ一ぢよてみなたすかるで (十一-20)
※意味 どんな難病や危篤な状態にある重い病気でもおつとめで、不思議なすかりを頂くことができる

このつとめなのにの事やとをもっている せかいをさめてたすげばかりを (四-93)
※意味 このおつとめは、世界を治め理想の平和を実現させることができる。
又、教祖は「一つ手の振り方間違ても、宜敷ない。このつとめで命の切換するのや。大切なつとめやで。」と教え

か。我々ようぼくは一日最低一回は、人の為に祈るお願いづとめをする必要があります。自分一人で勤めれば、お願いづとめは五分で終わります。ようぼくは一日千四百四十分あるうちの、たった五分位は、人の為に祈りを捧げる時間にする必要があるのではないでしようか。

我々の曾祖父や曾祖母の時代、おさづけは入信して随分たつてから戴いています。網走大教会初代会長脇本熊吉先生は、天理教に入信してから十四年後の明治四十年十一月二十六日、二代会長三幣勝五郎先生は入信後九年たった明治四十年三月五日におさづけを頂きました。
ではこの両先生は、おさづけを頂くまでおたすけはしていかなかったかというそうではありません。おさづけを頂く前から、医者に匙を投げられた病人や苦しむ方、どんだの生活をしている方へ、お願いづとめのみでご守護を頂いていたのです。
二代勝五郎先生はとにかく、重病人や大切なお願いをする時は、羽織袴に着替え、神様

て下さるように、このおつとめを一つも間違えないように、真剣につとめれば命の切換えができ、どんな難も逃れ、医者か匙を投げたような病気で奇跡が起きたすかる、そして世界中が治まってくる、と親神様は仰っておられます。
このおつとめには我々では想像もつかないような、とてもない力があるのです。
大教会を始め、各教会では朝夕と毎日必ずおつとめを勤めています。おつとめを勤める時は、必ず四つ手を叩いてから始まります。
四つ叩く拍手の一つ目は、神様と心を合わせる、二つ目は親に合わせる。三つ目は夫や妻に合わせる、四つ目は子供や、家族に合わせる。この四つを合わせて四合わせ(幸せ)となり、このことを日々、親神様、教祖にお誓いする為にまずは四つ手を叩くということを聞いたことがあります。
そして朝づとめでは、四拍手の後、親神様にはまずおはようございますと挨拶をし、「本日も網走大教会に繋がる人をはじめ、家族に繋がるもの、隣近所やそれぞれに繋がるもの一同が新しい一日を迎えさせて頂いたことにお礼申し上げ、その日の日付をお伝えし、只今よりお教え頂いたよろづたすけのおつとめを勤めさせて頂きます」とお願い申し上げおつとめを始めます。

又、おつとめが終われば、ない世界、ない人間をお創り下さいました元の神様、今も十全のご守護を下さいます実の神様、日々結構にお連れ通り下さりありがとうございます。本日も親神様へのご恩返しを心に、お望み下さいます陽気ぐらし世界実現の為、人たすけの御用にお使い下さいと今日の心定めをしてご祈念し四拍手をします。

次に教祖殿前に行き四拍手の後、教祖へおはようございますと挨拶の後、「ご存命の教祖には夜昼の区別なく私どもを結構におたすけ頂き、新しい一日を迎えさせて頂き誠にありがとうございますとお礼申し上げ、今日の日付をお伝えし、本日もひながたを心の定規として通らせて頂きますので、教祖の手足となつて人たすけの御用にお使い下さいますようお願い申し上げます。

にお供えする神饌物もおつとめの度に全て取り替え、まさに命がけでおつとめをしていたそうです。
我々も先人を見習い、せめてお願いづとめをする際は、病気や悩み苦しむ人の氏名や年齢、病気や悩みの内容を紙に書き、神様に供えておつとめをすべきではないでしようか。

更には病気の方や悩んでいる方が、信仰を持つている人であればその方に、自筆で神様との約束になる心定めを紙に書いて頂き、紙の裏には本人に反省の心として、思いつく度にさんげを一つずつ書いて頂き、親神様・教祖へ心定めとして約束をし、その約束を実行してご守護を頂けない時は、更に心定めを一つ増やし神様との約束をやり直して実行に移せば、必ずご守護を頂けるのです。
命に関わるような病気や、人の力ではどうにもならない悩みなどの場合は、何日間つとめると日にちを仕切つて、一日にお願いづとめを六回勤めれば、必ずご守護を頂くかご守護を頂く方へ導いて下さ

るもの一同が新しい一日を迎えさせて頂いたことにお礼申し上げ、その日の日付をお伝えし、只今よりお教え頂いたよろづたすけのおつとめを勤めさせて頂きます」とお願い申し上げおつとめを始めます。

又、おつとめが終われば、ない世界、ない人間をお創り下さいました元の神様、今も十全のご守護を下さいます実の神様、日々結構にお連れ通り下さりありがとうございます。本日も親神様へのご恩返しを心に、お望み下さいます陽気ぐらし世界実現の為、人たすけの御用にお使い下さいと今日の心定めをしてご祈念し四拍手をします。

次に教祖殿前に行き四拍手の後、教祖へおはようございますと挨拶の後、「ご存命の教祖には夜昼の区別なく私どもを結構におたすけ頂き、新しい一日を迎えさせて頂き誠にありがとうございますとお礼申し上げ、今日の日付をお伝えし、本日もひながたを心の定規として通らせて頂きますので、教祖の手足となつて人たすけの御用にお使い下さいますようお願い申し上げます。

人へのお願ひもそうですが、自分自身生きていますと、苦しいことや辛い時が多々出てきます。そういう苦しい時、辛い時は、天理市にあるおぢばへ帰り親神様がられるかゝるだいの前でおつとめをし、人様のたすかりを祈る。
そうすれば自身の心のほこりを払うことになり、心の掃除をすることになります。そして胸の掃除をして心が澄み切つたなら、我々人間すべての母親である教祖へ会いに教祖殿へ行き、たすけて下さい、私の苦しみを背負って下さいとお願ひすれば、教祖は子供が可愛くてしかたないという親ですから、我々の苦しみを全て背負って下さり必ずたすかるきつかけを色々つくつて下さったり、たすかりの為に人と出会わせてくれます。

おぢばへ行けなければ、近くの教会へ何度も通い同じようにおつとめをして、教会におられる教祖の前で、たすけて下さいとお願ひすれば必ず教祖が苦しみ、悩みを背負って下さいます。

す」とご祈念させて頂き四拍手をします。

祖霊様の場合も同様に四拍手をして「初代真柱様をはじめ歴代の真柱様、本席様や中山家の霊様、歴代会長、役員、信者その他諸々の霊様のお徳のお陰で今日を迎えさせて頂いたことをお礼申し上げます。霊いたことをお礼申し上げます。霊様が誠実の心で伏せ込まれたこの教会で本日も神様の御用を勇んでつとめさせて頂きます」とご祈念させて頂きます。

夕づとめは朝づとめのご祈念に對してお礼を申し上げます。そしておつとめをしている最中、うっかりすると他のことを考え、心が親神様から離れることがあります。こうなると真剣におつとめを勤めたということにはなりません。常に親神様に心を近づけて真剣におつとめをするにはどうすればよいのか。例えば第一節のあしきをはらうてたすけたまへ てんりわうのみことを一回ごとに心の中で、くにとこたちのみことさま 人間身の内の眼うるおい、世界では水の守護の理のご守護をありがとうございますと、そ

夕づとめは朝づとめのご祈念に對してお礼を申し上げます。そしておつとめをしている最中、うっかりすると他のことを考え、心が親神様から離れることがあります。こうなると真剣におつとめを勤めたということにはなりません。常に親神様に心を近づけて真剣におつとめをするにはどうすればよいのか。例えば第一節のあしきをはらうてたすけたまへ てんりわうのみことを一回ごとに心の中で、くにとこたちのみことさま 人間身の内の眼うるおい、世界では水の守護の理のご守護をありがとうございますと、そ

我々はもつとおつとめと向き合う必要があります。初代真柱様の奥様である御母堂様はおつとめについて「昔習つた頃は、何時土足の人が上がり込んでくるか分らんので、皆タスキ掛で稽古したんや。今日こうして、昼日中、誰にも文句言われず、教祖の辛苦しておつけ下さった手を移してもらえらるのやから、結構やで、しつかり稽古せないかんぜ。」とお話し下されました。

教祖がお姿があつた明治の頃は、神道が国の宗教でしたのでそれ以外の宗教は弾圧する時代でした。特に天理教や他に数カ所の他宗教は、政府からかなり厳しい弾圧を受けていました。
その頃、今勤めたおつとめは弾圧の対象になり、おつとめを勤めただけで警察に捕まり留置所へ入れられる状態でしたので、御母堂様は昔と違い今は、昼間からおつとめをしても警察に捕まることもないし、誰に文句も言われることもないから、教祖が苦心して直接教えて頂いたこのおつとめをさせてもらえらるのだから、しつかり稽古をしない

して二回目三回目と続き二十一回まで、順番に十全の守護の説き分けを唱えていけば、おつとめの最中に親神様・教祖から心が離れることはありません。

第二節のちよとはなし、第三節のたすけせきこむも、常にかんろだいを目の前に想像しおつとめを勤めさせて頂きます。真剣に勤めれば様々なたすかりを頂きます。
当たり前のご守護を頂くと思ふなら、当たり前にしなければならぬ朝夕のおつとめをする必要があります。当たり前のご守護が頂けないのは、当たり前前に勤めなければならぬ、朝夕のおつとめをしていないからではないでしようか。

これは私の勝手な悟りですが、私は朝夕のおつとめのご祈念の際、人のたすかりをお願いすることはありません。先ほどお話しした通り、親神様・教祖へはお礼とその日の心定めのみであります。
人のたすかりを願うには、朝夕のおつとめとは別に改めてお願いづとめをさせて頂くことが大切ではないでしよう

先ほどお話ししましたが、「一つ手の振り方間違ても、宜敷ない。このつとめで命の切換するのや。大切なつとめやで。」とのことでありますので、命の切換え、運命の切換えをさせて頂くためにしつかり、おつとめの稽古をさせて頂きましよう。
最後になりますが、論達第四号の締めくりに真柱様は「ご存命でお働き下さる教祖にご安心頂き、お喜び頂きたい。」と仰られました。教祖にご安心頂くということに關して、三代真柱様は「私たち、教祖がお望みになるつとめの完成に向かつて、努力を重ね続けてこそ教祖に安心してお話し下されました。
教祖にご安心頂くには、やはりおつとめがしつかりできるようなるために努力をすることです。そして教祖にお喜び頂くにはどうすればよいのか。それはおさづけを取り次ぐことです。
そして我々が頂いているおさづけは、てをどりのさづけ

先ほどお話ししましたが、「一つ手の振り方間違ても、宜敷ない。このつとめで命の切換するのや。大切なつとめやで。」とのことでありますので、命の切換え、運命の切換えをさせて頂くためにしつかり、おつとめの稽古をさせて頂きましよう。
最後になりますが、論達第四号の締めくりに真柱様は「ご存命でお働き下さる教祖にご安心頂き、お喜び頂きたい。」と仰られました。教祖にご安心頂くということに關して、三代真柱様は「私たち、教祖がお望みになるつとめの完成に向かつて、努力を重ね続けてこそ教祖に安心してお話し下されました。
教祖にご安心頂くには、やはりおつとめがしつかりできるようなるために努力をすることです。そして教祖にお喜び頂くにはどうすればよいのか。それはおさづけを取り次ぐことです。
そして我々が頂いているおさづけは、てをどりのさづけ



○村井実会長 略歴
 ・平成3年2月21日生まれ
 ・令和4年8月17日おさづけの理拝戴
 ・令和5年9月1日教人登録
 ・令和5年10月18日教会長資格検定合格



▼総会17名参加

武士分教会お運び

10月26日、本部教祖殿にて、武士分教会が任命の事情運びを、大教会長付添いのもと、無事にお許しを頂いた。

その後、大教会長を芯に東礼拝場にて、かよろだいを拝し、お礼づけをさせて頂き、教祖殿、祖霊殿を廻り、教祖霊様へお礼の参拝をさせて頂いた。

奉告祭 11月14日 午前10時

立教187年人のご守護 心定め			
初席者	ようぼく	修養科修者	教 人
60名	29名	18名	11名
成 果 (10月末現在)			
13名	7名	8名	1名

になります。このおさづけはまさにおつとめの理をそのまゝ、病人の患部に取り次ぐこととなります。おつとめをしなければ、おさづけの効能の理は頂けないのです。

本日勤めた月次祭は、一番大切なおつとめになり、朝夕のおつとめ、お願いごとめとを含め、より一層真剣におつとめを勤め、再来年一月二十六日の教祖百四十年祭当日には、教祖にご安心頂き、喜び頂けるよう、その日を楽しみに残りの年祭活動期間を勇んでつとめさせて頂きましよう。

本部秋季大祭

10月26日、さわやかな秋晴れのもと、本部秋季大祭が中山大亮様を祭主に厳かに執行された。

かぐらぶとめ、てをどりが勤められ、その後、真柱様があいさつに立たれ、正月の大地震に続き、同じ能登の地が豪雨に見舞われたことに言及され「これは、私たちの年祭に対する取り組みが、思召にお応えするにはまだまだだということなのだと思った」として、「道の子が一手一つになつて力強く歩むまでには、もつとたくさんのようぼくが年祭に心を向け、年祭へ向かつての動きに取り組むように働きかけ、丹精を続けなければ、教祖に安心しては頂けないと思う」と述べられた。

最後に、真柱様は「三年千日の期間は、動かさせて頂くことが大切」と強調され、一生懸命取り組んで、年祭の当日を嬉しい心で迎えることができるように、まだ三分の一残っている三年千日を、勇み

心を奮い起こして通ることを求めて、お言葉を締めくくられた。

◎境内地除草ひのきしん

25日10時から、本部西境内地の除草ひのきしんをさせて頂き、その後、本部で行われているお願ひごめを参拝し、身上者はおさづけのお取り次ぎもして頂きありがたい時間となった。参加者10名



◎廻廊拭きひのきしん

26日朝、布教部主催の廻廊拭きひのきしんが行われ、大勢の参加者が勇んで廻廊拭きをさせて頂いた。

廻廊拭き終了後、教祖の朝のお出ましを拝させて頂き、朝づとめを参拝して詰所へ戻らせて頂いた。参加者40名

ようぼく誕生を祝う会

10月26日、ようぼく誕生を祝う会が詰所の応接室で開かれた。

この会は昨年1月から今年の10月までによりよくにされた方を対象に、お祝いをさせて頂こうというもの。

最初にようぼくとしての使命や、おさづけの大切さ、また取り次ぎの手順などを齋藤准役員がお話させて頂き、その後、実際に参加者同士で、おさづけの取り次ぎ合いをさせて頂いた。普段なかなかおさづけを取り次ぐ機会のない方もおられ、良い機会になったと感想を述べてくれた。

神殿大掃除

大教会の神殿・参拝場周辺の大掃除が、10月10日行われた。

1年のすすを払い、壁や柱障子戸の雑巾掛けなどさせて頂いた。大勢の方がひのきしんして下さり、普段手の行き届かないところまで隅々掃除をさせて頂いた。



最後にケーキとコーヒーを頂きながら、おたすけ話などで盛り上がり、これからはたすかる側からたすける側になつてもらいたいという意味を込めて、記念品を贈呈して解散した。参加者5名

◎真柱様のお言葉の振り返り

26日秋季大祭終了後、詰所2階大広間にて、大祭での真柱様のお言葉を再度聞かせて頂き、その後、班に分かれて練り合いをさせて頂いた。三年千日の年祭活動の振り返りと、残りの年祭活動をどう進めていきたいかなどを、練り合わせて頂いた。参加者41名



◎懇親会

26日夕づとめ後、懇親会が開かれ、大勢の帰参者で食堂がいっぱいになり、カラオケなどで盛り上がった。

最後には、「進め網走」を全員で熱唱してお開きとなった。

少年会

10月20日、詰所でハロウィンパーティーが行われた。

栗林徳正団長からお話があり、その後、ハロウィンらしくお菓子を配り、ビンゴゲームなどで盛り上がった。

おちばに在学している学生会のメンバーもスタッフとしてつとめてくれ、参加した子どもたちも終始楽しそうな様子だった。

参加者 少年会員10名
 学生会6名・育成会員3名



動 静

年 祭

▼直轄所属・白木幸一の霊様の1年祭が10月13日、網走セントラルホテルにて瀬川定自・直轄世話人祭主のもと執行された。

白木家様 (白木幸一様1年祭)

小川家様 (小川助次郎様50年祭)

大教会10月の動き

▼直轄所属・小川助次郎の霊様の50年祭が10月30日、大教会にて瀬川定自・直轄世話人祭主のもと執行された。

1日 役員会会議
2日 会長、教区祭出席(教区)。教区祭網走支部会場。網走支部例会会場。
5日 お話し会
6日 上段大掃除。縦の伝道日
10日 役員会会議。参拝場、廻廊大掃除
11日 教祖140年祭網走おたすけ委員会会議。布教部例会。育成部部会。婦人会例会
12日 秋季大祭。役員会会議。連絡会。みちのだい育み塾
13日 教会長夫妻練り合い。修養科事前研修会よろこびセミナー(15日まで)
15日 会長、上級参拝、関東、札幌方面直轄信者まわり(21日まで)

育英会寄付者

17日 会長、館山分教会秋季大祭参拝
18日 会長、嶽東大教会参拝
20日 縦の伝道日
23日 会長おぢばがえり。
24日 詰所23会
25日 会長、本部神殿奉仕つとめる。秋季大祭団参出発(27日戻り) 五季御礼
26日 本部秋季大祭遙拝。会長、結城和広役員、本部神殿奉仕つとめる。ようぼく誕生を祝う会(詰所)
27日 会長、青年会総会、かなめ会出席。藤山重善役員、本部神殿奉仕つとめる。縦の伝道日
28日 会長、一期講師各期研修会(29日まで)
29日 大教会一斉活動日
30日 教区会議
31日 みそか会。直轄世話人会

○傍聴願

網昇 渡邊勝也

15日 会長、上級参拝、関東、札幌方面直轄信者まわり(21日まで)

○中席者

直轄 浅田幸斗
旭網 橋本義徳
網栄 三澤富雄
徳元 渡部順雄
網盛 大盛太
誠網 田中雄也

11日 教祖140年祭網走おたすけ委員会会議。布教部例会。育成部部会。婦人会例会
12日 秋季大祭。役員会会議。連絡会。みちのだい育み塾
13日 教会長夫妻練り合い。修養科事前研修会よろこびセミナー(15日まで)

○初席者

網栄 三澤富雄
栗沢 岩崎史也
誠網 田中雄也

5日 お話し会
6日 上段大掃除。縦の伝道日
10日 役員会会議。参拝場、廻廊大掃除
11日 教祖140年祭網走おたすけ委員会会議。布教部例会。育成部部会。婦人会例会
12日 秋季大祭。役員会会議。連絡会。みちのだい育み塾
13日 教会長夫妻練り合い。修養科事前研修会よろこびセミナー(15日まで)



立教187(令和6)年人のご守護成果表 (10月末現在)

Table with columns for church names, initial, middle, and final seats, and total members. Includes a summary row at the bottom.

秋季大祭 10/12(土)

Table detailing the autumn festival on 10/12, including roles like priest, organist, and participants.